

## 第6学年1組 体育科学習指導案

平成24年5月29日(火)第5校時

授業者 教諭

場 所 体育館

### 1 単元名 つないでシュート～バスケットボール～【ボール運動】

### 2 単元の目標

- ・仲間と協力して練習やゲームに取り組み、バスケットボールを楽しもうとする。  
(運動への関心・意欲・態度)
- ・自分のチームの課題に合った練習を選び、工夫して練習したり、簡単な作戦を立てたりすることができる。  
(運動についての思考・判断)
- ・パスやシュートなどの基本的技能を向上させ、その技能をゲームで生かすことができる。  
(運動の技能)

### 3 単元について

バスケットボールはアメリカの国際 YMCA トレーニングスクール(現・スプリングフィールド・カレッジ)の体育部教官を務めていたカナダ人のジェームズ・ネイスミスによって考案されたスポーツである。2チームが、5人対5人で一つのボールを手で扱い、コート上に設置された相手チームのバスケットリングに上方から入れること(ゴール)、相手チームはそれを防ぐことで、得点を競う種目である。小学校体育においても古くから扱われており、新学習指導要領でもゴール型のボール運動に位置付けられる最もポピュラーなボール運動である。

本単元「つないでシュート～バスケットボール～」はその名の通りパスを重視したゲームで、バスケットボールの下位教材である。その特徴としては、①ドリブル禁止のパスゲームであること、②大きなバスケットボールではなくドッジボールを使うこと、等が挙げられる。近い未来(2月に実施するバスケットボール)につながる単元である。

### 4 児童について

男子16名、女子15名、計31名の学級である。非常に明るく元気な児童が多く、体育の時間はもちろん、休み時間も体育館や校庭で積極的に体を動かしている。

本学級の児童は昨年度、ゴール型のボール運動としてハンドボールを経験している。ハンドボールでは使用したボールが柔らかく、パスやシュート等のボール操作も容易なため、多くの児童が楽しく取り組み、全員がシュートを決めることができた。本単元で行うバスケットボールは恐怖感が少なく扱いやすいボールを使用するパスゲームであるため、ボール運動が苦手な児童にも取り組みやすいゲームであること、また、バスケットゴールにシュートをねらうというこれまで経験したことのないタイプのボール運動ということもあり、児童が意欲的に授業に参加することが期待できる。

### 5 指導について

研究主題「未来につながる力をもつ子どもの育成」を実現していくために、体育の授業においては、課題に主体的にかかわろうとする意欲・態度を育てるとともに、課題を見出し、解決するための能力を高められるような授業づくりを目指している。研究主題の実現、そして、児童が意欲的にバスケットボールに取り組んでいけるようにするために、以下のことを実践していく。

#### (1) チームづくりについて

課題に主体的にかかわろうとする意欲・態度を育てるためにはチームづくりが重要である。本単元ではランニング、準備運動、作戦タイム、練習タイム、そしてゲームと、学習活動のほとんどをチームで進めていく。様々な学習活動をチームで協力して行うことで、学習に対する意欲や態度を育てたい。また、チーム中心の活動によりチーム内の絆を深め、仲間と協力することの大切さやすばらしさを感じさせたい。そして、試合に勝ったときはチーム全員で喜び、負けたときはチーム全員で悔しがることのできるような絆の深いチームになれるよう支援していきたい。

#### (2) 作戦タイムについて

課題を見出し、解決するための能力を高められるように、話し合う機会(作戦タイム)を設ける。チームの課題を試しのゲームをもとに見つけ、その課題に合った練習を選んだり、得点するための作戦を考えたりすることでその能力を高めさせたい。また、本時の作戦タイムでは、作戦を立てることと同様に、仲間の考えを聞いたり、自分の考えを仲間に伝えたりすることにも力を入れて指導していきたい。その作戦タイムがより活発に進められるように作戦盤を用いる。作戦盤を用いて、話し合いが積極的に行われるよう支援していきたい。

(3) ルールづくりについて

ボール運動が苦手な児童もバスケットボールをより身近なものに感じ、愛着をもって取り組めるように、ルールを児童と共につくっていく。ただし、基本的なルールは本単元のねらいに即して教師が児童に提示する。本單元ではできる限り多くの児童にシュートを打たせたい。そのためにオフェンスが数的優位にあるアウトナンバーを取り入れる。数的優位な状況を意図的に作っておくことで多くの児童がパスをつなぎシュートを打てるのではないかと考える。また、細かいルールは試しのゲームを行った上で、学活の時間等を使って話し合っ決めていきたい。

6 指導計画（8時間配当）

- 第1次 バスケットボールにふれてみよう。 (1時間)  
試しのゲームをしてみよう。 (1時間)
- 第2次 チームで作戦を立てて、練習やゲームを楽しもう。 (3時間)
- 第3次 自分たちに合ったルールを考えよう。〈学活〉 (1時間)
- 第4次 6年1組バスケットボールリーグ戦を開催しよう。 (2時間 本時1/2)

7 本時の目標

- ・パスをつないでシュートをねらい、楽しくゲームができる。

8 準備物

ドッジボール スポーツタイマー ビブス リストバンド カラーコーン  
作戦盤 得点板 音楽用CD ポータブルCDプレーヤー 移動黒板

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
<p>○チームごとにウォーミングアップをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲に合わせてランニング</li> <li>・準備運動、ストレッチ</li> </ul> <p>○整列、始まりのあいさつをする。</p> <p>○本時のテーマをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>パスをつないでシュートをねらい、ゲームを楽しもう！！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パス、シュートの基本確認</li> <li>・練習タイム、作戦タイムの確認</li> </ul> <p>○チームごとに作戦・練習タイムを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦（作戦盤を使って行う）</li> <li>・練習①（パスを中心とした練習）</li> <li>・練習②（シュートを中心とした練習）</li> <li>※上記の3項目をローテーションして行う。</li> </ul> <p>○バスケットボールを楽しむ。</p> <p>赤A 対 黄A 赤B 対 黄B 黄A 対 青A 黄B 対 青B 青A 対 赤A 青B 対 赤B</p> <p>○チームごとに学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスをつないでシュートがねらえたかの確認</li> <li>・チームのMVP発表</li> </ul> <p>○次時予告を聞く。</p> <p>○終わりのあいさつ、後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腕、肩、手等をしっかり意識して準備運動をするよう声をかける。</li> <li>・児童の服装、健康状態を確認する。</li> <li>・前時までの反省を確認し、再度、パスをつないでシュートがねらえるような作戦を立てたり、練習をしたりするよう促す。</li> <li>・各チームの練習に加わり、適宜、指導や支援をする。</li> <li>・パスをつないでシュートをねらうよう、必要に応じてアドバイスする。</li> <li>☆チームの課題に合った効果的な練習ができているか。（行動観察…思・判）</li> <li>・ゲーム中もパスをつないでシュートを狙うように声をかける。</li> <li>☆パスをつないでシュートがねらえているか。（行動観察…技）</li> <li>・パスをつないでシュートがねらえたか確認させる。</li> <li>・MVP発表は理由もつけるよう促す。</li> <li>・次時を予告し、意欲をもたせる。</li> <li>・協力して後片付けをするよう促す。</li> </ul>

10 授業の観点

- ・バスケットボールのルールや作戦タイムの進め方は本時の目標の達成に適切であったか。